

事業所名		彦根市発達支援センター				支援プログラム（参考様式）		作成日	令和7	年	3	月	26	日
法人（事業所）理念		障害があっても、地域で自分らしくいきいきと生活できることをめざす。												
支援方針		障害をなくす、できないことを訓練するという視点ではなく、その子どもの特性や強みを把握し、子どもや家族が生活しやすくなるために、どういったかわりをすればよいかという視点で、支援を行う。												
営業時間			8 時	30 分から	17 時	15 分まで	送迎実施の有無		あり なし					
		支 援 内 容												
本人支援	健康・生活	・健康状態の把握（意思表示が困難な子のサインに気づけるよう…） ・咀嚼・嚥下・姿勢保持・自具具等に関する支援 ・構造化による環境調整						・健康の促進：睡眠・食事・排泄の基本的なリズム ・基本的な生活スキル						
	運動・感覚	・日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や常時・下肢の運動・動作の改善および習得 ・姿勢保持や各種運動が困難な場合、補助用具などの補助的手段を活用できるようにする ・感覚の補助、代替手段の活用（眼鏡や補聴器等）感覚を十分に活用できるよう遊びを通して支援する ・感覚や認知の特性（鈍麻、過敏）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援						・関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持強化 ・移動能力の向上（自力での身体移動）歩行、歩行器、車いす等含む						
	認知・行動	・環境から情報を収集して認知機能の発達を促す支援 ・物の機能、属性、色形、音の変化、空間・時間の概念の形成を図ることによって認知や行動の手がかりとして活用できるよう支援 ・数量・大小・色などの習得、数量・形の大きさ、重さ、色の違いの習得のための支援						・知覚→メッセージの選択→行動につなげる一連の過程 ・認知の偏りへの対応（こだわり）						
	言語 コミュニケーション	・体系的な言語の習得、自発的な発声を促す等の支援 ・相互コミュニケーション能力の獲得 ・コミュニケーション機器の活用。文字・記号・絵カード・機器を適切に選択し理解と伝達が円滑にできるように支援する						・具体的な事物・体験と言葉の意味を結びつける ・受信発信の支援：自発的な発声を促す、指差し・身振り・サインの活用						
	人間関係 社会性	・アタッチメントの形成、身近な人と親密な関係を築く・信頼関係を基盤 ・一人遊びから共同遊びへの支援 社会性の発達を支援する ・集団参加への支援						・模倣行動の支援、感覚運動遊びから象徴遊びへの支援（みたて、ごっこ） ・自己理解 自分の力でできることできない事、気持ちや情動のコントロール						
家族支援		園と家庭と一貫して支援ができるように、共有する。					移行支援		就園、就学後の生活が安心して始められるように引き継ぐ。					
地域支援・地域連携		園や家庭、他の事業所と一貫して支援ができるように、共有する。					職員の質の向上		療育の始業前始業後、毎回職員間で支援について検討している。研修を受講している。					
主な行事等		・家族参観 ・ブール ・クリスマス会 ・研修会 ・ミュージックケア												